



今年も夏がきました！

ついに夏がやってきました。高知はご存じのとおり最高気温日本一を記録した文字通りの南国です。森林を占める割合も日本一とくれば、空気もきれいということになり、夏の日差しはクリアでじりじりと刺すような感じです。高知に住んで 30 年以上になりますが、まず驚いたのは、この恐ろしいまでの夏の日差しです。そして、目覚ましがわりのクマゼミの大合唱、この二つは私にとって「高知の夏」なのです。

さて、今年は三つ目の「高知の夏」を体得しようと、よさこい祭りにチャレンジしてみようと思っています。一年で最も過酷なこの時期に、激しく華やかに舞い踊るハードなお祭りを愛する高知県のパワーの源は何か、身をもって体験し、さらにパワーアップしたいと思います。年齢と体力を考えほどにほどに・・・



夏祭りたけなわ

お祭り、浴衣、金魚すくいが定番となる日本の夏です。本校分校においても学校・学部行事等で夏祭りを学習に取り入れています。なぜこの時期にお祭りをするのでしょうか。古来から春は農作物の豊作を祈り、秋は収穫の感謝からお祭りをすることが風習として残っていますが、夏は、病気や自然災害から身の安全を祈念する習わしが、暑気を払う楽しいお祭りとして受け継がれているようです。エアコンも天気予報もない大昔は、この暑さをしのぐこと、台風などの自然災害から身を守ることは、まさに命がけだったのでしょうか。



県立特別支援学校長会にて

先日、県立の特別支援学校長会が開催され、主に以下のことについて協議を行いました。

- 特別支援学校における運動部活動の振興
 - ・運動部活動の活性化に向け準備会を設置
- 高知県特別支援学校技能検定
 - ・知的障害特別支援学校を対象に実施予定
※ 次年度以降他の特別支援学校にも拡大
- 居住地校交流
 - ・実施件数が今年度大幅に増加
- 特別支援学校再編振興
 - ・計画の策定と今後の取組
- 不祥事の防止
 - ・体罰案件の状況と今後の対応



全国特別支援学校長研究大会 in 東京

6 月 23・24 日の両日、東京の代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、全国特別支援学校長研究大会が開催され、高知県内の特別支援学校長さんと参加しました。

この研究大会は毎年この時期に行われており、全国の特別支援学校(約 1,100 校あります)から今年は 850 名程度の学校長が参加した大きな研究大会でした。研究主題は「インクルーシブ教育システム構築の展望と特別支援学校の経営の在り方」として、講演、行政説明、研究協議が行われました。

少子化やインクルーシブ教育システムが推進されている中で、特別支援学校で学ぶ児童生徒は依然として増加傾向にあるようです。このことは、特別支援学校が行う教育への期待とも捉えられ、一層の充実に向けて努力しなければならないと考えます。

国においては、いわゆる脱ゆとりを宣言した大臣メッセージの中で「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学ぶ態度」を重視し、次の学習指導要領の改訂に向け「社会に開かれた教育課程」

「アクティブラーニング」「カリキュラムマネジメント」をキーワードに教職員定数改善を含め、現在作業を進めているとのことでした。また、高等学校において通級による指導の制度化(平成 30 年度)も今後行われる大きな改革であると説明がありました。こうした国の動向を注視しながら、より質の高い授業を提供できるよう研鑽をつまなければならないと感じた 2 日間でした。

